

1 調査の経過と結果

(1) 富山県滑川市の概要

本町と昭和59年（1984年）に姉妹都市の締結をしている滑川市は、人口約3万3,000人、面積54・62平方キロメートル、富山湾に面した田園都市であり、江戸から明治時代には「越中富山の薬売り」で知られる売薬業の拠点の一つとして大きく発展し、現在でも市内には売薬店を営む業者が多く、近年では大型企業の立地が相次ぐなど、工業都市として発展している。また、世界的にも有名なホタルイカの産卵地であり、「ホタルイカ群遊海面」は国指定特別天然記念物に指定されている。



滑川市長らを表敬訪問

(2) 滑川市における観光事業について
毎年3月から5月にかけて、ホタルイカが目の前で発光する様子を目にすることができ「ほたるいか海上観光」や「ほたるいかミュージアム」に全国から多くの観光客が訪問している。



ほたるいか魚のようす

古代神」は、情緒豊かな夏の風物詩となっている。



東福寺野自然公園

また、富山県内唯一の正三尺玉の打ち上げが行われる「ふるさと龍宮まつり」には毎年多くの見物客が訪れている。

(3) コロナ禍における滑川市の観光事業に対する支援

滑川市において新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客を再度呼び込み活気を取り戻すため「観光事業等デジタル化支援事業」を実施し、滑川市内で観光に関する事業を営む中小企業・小規模企業者・個人事業主が、予約システム・通信販売サイト等ホームページ作成・改修など、今後

2 調査を終えて

今回の調査では、姉妹都市である富山県滑川市を訪問し、コロナ禍における観光事業等によるまちづくりについて、説明聴取及び現地視察を通して調査した。

「ほたるいか海上観光」には多くの観光客が参加しており、受付から案内、ライフジャケットの着用といった安全対策などの説明にいたる業務を滑川市若手職員が職員研修を兼ねて担っており、その中でマスク着用・手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など十分な感染症対策を行って実施していた。名産であるほたるいかを使用して土産品やグッズ等も充実しており、地元経済が潤うサイクルが形成されていた。

地元企業の技術支援・協力を受け建設され、平成30年1月にオープンした「滑川市屋内運動場（KENKO DOME）」は、野球やフットサル、ペタンクといったスポーツやその他屋内運動場として、市民が多目的に使用できるよう整備されていた。

また、滑川市の歴史が年代ごとに分かるような展示物が多く所蔵されている「滑川市立博物館」や、県内唯一の形と規模を誇るふわりわドームや国際パークゴルフ協会公認コースでのパークゴルフなどが楽しめる「東福寺野自然公園」においても徹底した新型コロナウイルス対策を実施し、今年度以降はコロナ禍であるが、以前のように子どもから高齢者までの幅広い年齢層が安心して利用できる体制が整っていた。



滑川市屋内運動場 (KENKO DOME)

また、本町の観光資源としては、町のシンボルである「はるにれの木」をはじめ、平成28年から冬の北海道を代表する観光コンテンツとして整備を進めている「ジューエリーアイス」、地元産物や土産品を取り扱う「とよころ物産直売所」、町の観光拠点施設「ココロコテラス」、キャンプやパークゴルフが楽しめる「茂岩山自然公園」などがあるが、コロナ禍においては、外出自粛により豊頃町への来訪者が減少したことに伴う物産の売上が減少した影響を受けている。



滑川市立博物館を見学

また、本町の観光資源の多くが通過型観光であることから、地元への経済効果が少ないことがかねてより指摘されている。今後の課題として、通過型観光から中・長期滞在型の魅力ある観光行政を積極的に推進すべきであり、地元産物を活かした特産品や体験型のツアー商品の開発といった、地元の経済が活性化するようなサイクルの構築が今後の課題であるとの意見も出された。



東福寺野自然公園内 時計台前にて

北海道町村議会議長会 自治功労者表彰

6月14日（火）に開催された北海道町村議会議長会第73回定期総会において、藤田博規議長が自治功労者表彰を受賞しました。

藤田議長は、豊頃町議会議長として長年にわたり地方自治の振興発展に寄与貢献されたことから表彰されたものであり、定期総会において受賞者を代表して、謝辞を述べられました。



受賞者を代表し謝辞を述べる藤田議長